

三條別院のご案内

三條別院に想う

色々なご縁で三條別院に足を運ぶ様になりも
う何年になるだろう。現在は報恩講実行委員会
や諸々でお世話になっています。

三條別院に通い出した頃の私は解らない事も
多く、当事者意識も薄く只々「お客様」、そんな
状態でした。視点で言えば「外側」からの視点
しか持ち合わせていなかった。ですから疑問が
有っても自身の問いにならずただ文句ばかり、
お恥ずかしい限りです。ですがそんな私も三條
別院でのご縁を通して多くの諸先輩、法兄、法
友、御門徒に出会い交流する中で色々な気付け
て頂きました。このご縁によってお客様から当
事者となり、三條別院を通して「内側」から見
る視点を頂きました。視点が変わると同じ事柄
でも見え方が変わる。不思議なものです。自坊
が良い例で寺にいる時は自坊の事は全て見えて
いる様に勘違いをしてしまう、でも意外に見え
ていない。かえって外から客観視すると善きに
しろ、悪きにしろおもしろいほど見えてくる。
願わくは内外両方見える自分で常在りたい。
三條別院「三條御坊」は三百年にわたり地
域の崇敬の場、聞法の中心の場として先達の努
力により護られて来ました。ただそれだけでは

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

なく私が感じる事はその空気感、どのような空
気かという「人が育つ空気」、それこそ先達の
願い、そこに集う人、その中に育ってほしいと
願う人、育てたい人、育てている人、育ちたい
人、育つ人、様々な人が混在してその空気にな
る。その空気は昨日今日で出来るものではない。
法を通してこの事こそが目には見えないが長年
相続されてきた大切なものなのでしょう。だか
らこそ一人でも多くの人にその空気を味わって
実感して頂きたい。前述した様に私もだいぶお
世話になりました。三條別院護持、相続に一役
かえることがあるなら微力ながら協力していき
たいと思っております。

(第十六組浄宮寺 佐々木一人氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

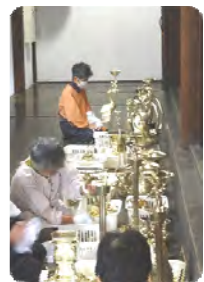
米山 久雄氏 (三條別院階徒) より

ご執筆いただきます



■秋の別院奉仕研修会 (おみがき) のご案内

本年の報恩講を迎えるに当たり、当別院では「秋の奉仕研修会」を開催いたします。伝統的な「おみがき」を中心にした奉仕研修会です。寺族・門徒、どなたでも御参加できます。



◇開催日 十月二十三日 (木)

◇時間 午前九時三十分受付 十時より

◇内容 ①仏具のおみがき②野外清掃(庭・境内の枯葉拾い・草取り等の作業) ③屋内清掃

◇締切 十月二十日 (月)

◇参加費 無料 (昼食は別院が用意いたします)

■別院秋彼岸会が勤まりました

十月二十五日に竣工予定の別院整備事業。九月二十日から二昼夜三日間にわたって勤められた彼岸会を終え、仮本堂でのお勤めもあと僅かなのだという感慨が湧いてきます。

彼岸会の講師と講題は以下の通り。二十日朝の人生講座 鷺尾祐恵氏 (第十四組光傳寺) 「念仏を称えるまで」、速夜法要 大久保州氏 (佐渡組廣永寺) 「深い祈り」、二十一日人生講座、小林智光氏 (第十二組浄照寺) 「源氏物語と仏



【渡邊学氏】

教(日本文学と仏教③)、日中法要、森惠成氏(高田教区善巧寺)「お彼岸に想

う」、逮夜法要、引き続き森惠成氏「達如上人の事蹟に聞く」、二十二日人生講座、渡邊孝氏(第二十三組

明正寺)「父のいごとく、母のいごとく」、日中法要、藤吉禅氏(第十三組廣深寺)「我心」。

本年は二十一日逮夜から一昼夜、東本願寺二十代達如上人の百五十回忌法要を兼修しました。

また、同じく二十一日に「震災に関わり続けていく」という趣旨で東日本大震災復興支援チャリティバザーを行いました。バザー収入金額は40,095円であり、すべて三条教区東日本大震災

救援金へと納めさせていただきました。多くの御寺院・御門徒より品物を頂戴いたしましたことを改めて御礼申し上げます。もともと「別院行事に教区の寺院・門徒がどのような形で関わる

ことができるのか」という課題からはじまったものです。物品提供者や、彼岸会に足を運んでくださった

方々、有志の会・教化審議会をはじめとしてお手伝いいただいた方々、本当に大勢の力をお借り

して勤められた彼岸会でした。



【藤吉氏(左)、大久保氏(右)】



【上から鷲尾氏、小林氏、森氏】

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂(現在は仮本堂)にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【十月二十八日(火)】

午前十時 お勤め(御命日) 日中法要

文類偈 行四句目下念仏讚 洵五

和讃 回口 次第六首 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

村手淳史氏 (第二十組光圓寺)

◇今後の講師一覧

十一月 巨谷 学氏 (第十組善一寺)

十二月 北島 榮誠氏 (第十一組長福寺)

■定例法話会のご案内

毎月十三日は、「両度の命日」と呼ばれている前門首の

ご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の

命日」についてお書きになられています。(四帖目十一通)

旧御堂にて開催しております

したが、改修工事に伴い、十月まで仮本堂(同朋会館二階)での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。



【なむの大地展を語る】

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(二時間程度)

◇場所 三条別院 仮本堂

◇講師 九月〜十二月 富沢慶栄氏(第二十一組超願寺)

※大盛況に終わった「親鸞となむの大地展」。新潟親鸞学会事務局の富沢氏に、全四回で法話を依頼しております。

第一回(九月)は、新潟親鸞学会における御遠慮事業としての「なむの大地展」開催にいたるまでの経緯と、「恵信尼文書のお里がえり」についての富沢氏の思いをお話しいただきました。実際に歴史博物館に足を運んだ方は、裏話もお聞きできますので、ぜひお参りください！

■別院声明教室のご案内

今年度前半は普通寺院の報恩講のお勤めを中心に学びます。是非一緒に学びましょう。

◇開催日 十月十六日(木)十一月十三日(木)、十二月十一日(木)

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇講習内容 正信偈 真四句目下 念仏讚 洵五

◇講師 源川秀教氏(第十一組 圓満寺)

◇持ち物 『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

■別院書道教室のご案内

◇開催日 毎月二回(第一、第四水曜日)

◇時間 午後六時三十分〜八時

◇講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

◇謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円
・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円
・昼食代 一、〇〇〇円程度
・夕食代 一、三〇〇円程度

なお、お取り越し報恩講後には、皆様の御懇念により御修復が完了した本堂・諸殿を会場とした、「別院特別参拝」を実施いたします。詳細は次号にご案内させていただきます。

三条別院巡回について

かつて二条別院の御影をお迎えし、各門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数え

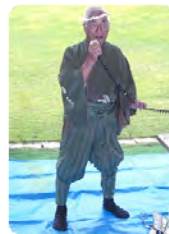
るほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談ください。

私たちが、別院有志の会です！(会員の声)

三条別院有志の会に入つて四年が過ぎようとしています。

有志の会に入るきっかけで



すが、私が初めて三条東別院へ御参拝させて頂きましたのは、平成二十二年五月二十三日、お手継ぎの長泉寺はじめ十五組の親鸞聖人七百五十回御遠忌法要お待ち受け大会のことでした。その時、本堂に「親鸞音頭」の踊りで初めて入らせていただきました。今まで噂には三条の御坊様とか、お取り越しがあるとは聞いていましたが、私は六十九才まで「別院は南は柏崎から北は村上、佐渡にいたる四百五十ヶ寺を超える念仏求道の中心道場である」ということは知りませんでした。いつ頃か忘れましたが、同朋会館に宿泊させていただきました。朝のお勤めが終わってからお昼頃までにトイレ四ヶ所全部と洗面所の皿を清掃させていただきました。清掃中は南無阿弥陀仏を称えながら、させていただきました。毎月の十三日、定例法話の時に「嘆仏偈は棒読みでよい」と言われましたが、四く五回目に

どうにかとなえられる様になりました。私事です。が、九月の秋彼岸前の清掃や十月のおみがき奉仕団の時、お寺様や、関係者しか入ってはならない

内陣まで、はじめて入らせていただきました。阿弥陀如来像と、右隣の親鸞聖人御影と、歴代上人御影等いろいろ拝ませていただきました。この時ほど有志の会に入つて良かったと思つたことはありません。これからも、もつと三条別院へ足を運びたいと思っています。(知野吉夫)

◇◇編集後記◇◇

子どもたちの声が境内に響く。

松葉幼稚園の運動会開催が十月四日に迫り、

先生と保護者、園児たちの練習にも熱が入る。

園児たちは勝てば体いっぱい喜びを表現し、負ければ悔しそうな表情を浮かべながら境内を所狭しと走り、飛び跳ねている。なんと素直なことだろう。子どもたちの姿を見ていると何かムズムズ、ソワソワ、居心地の悪い気持ちになることがある。

ある方から学生の時、「子ども視点で阿弥陀さんに向き直ってみなさい。」と教えられたことがある。斜に構え理屈をこねる私を見かねてお話し下さったのだろうが、この季節に子どもたちを見ていると当時のその言葉が眼前に浮かび上がる。

十月といえば別院の職員はお取り越し報恩講の準備に右往左往しているのは、この時期の編集後記では毎年のごとくに書かれているのだが、事実落ち着いて本堂に座ることが少ないと思う。恐らく居心地の悪さの原因はそんな自分と眩しい子どもの表情とのギャップだろう。

また理屈をこねる自分に気付いたところで、本堂に向かうでしょう。(松浦)